

第6回ドラッカー学会総会・講演会・懇親会
亜細亜大学 経営学部 ボランティア参加感想文集

未来創造

未来創造

白 珍尚

「マネジメントの父」と呼ばれる P.F. ドラッカーは「われわれは未来について、二つのことしか知らない。一つは、未来を知ることにはできない。二つは、未来は現在存在するものとも、そして現在われわれが予想するものとも違ったものだろう。」という。あまりにも基本的なことである。しかしそれは、あまりにも理解されていないことでもある。

未来を知ることができないという言葉はわれわれを悲観の極致に陥れるかのようにも聞こえるが、その言葉はわれわれに大きな希望を与える。すなわち、自らをマーケティングし、自らをイノベーションすることで、自らが自らの未来を創造することの必然性と可能性を示唆しているのである。一日一日という毎日と日常を生きるわれわれが常に変化していることはもちろん、変化しなければならず、自らが自らを変化させることによって、今日とは異なる明日、知りえない未来には今日とは異なる新たな自らを迎えられるという希望を与えてくれる。

ところが、明日という未来が今日とは異なり、今日予想するものとも違うということは理解されても、何もしないという最大のリスクが理解されることは少ない。

未来を夢見ることは簡単である。しかし、未来を語り合うことよりはるかに積極的な姿勢が求められる。明日行うべきことを決めることなどよりもはるかに積極的な姿勢が求められる。夢を実現するためには今日何を行うべきか、今日とは異なる明日を招き寄せるためには今日何を行うべきかを決めることなどよりもはるかに積極的な姿勢が求められる。すなわち、変化を当然のこととし、自らが変化を創造するという積極的な姿勢が求められるのである。

変えなければ変わらない、また始めなければ始まらない。人生の中で最も大事な一瞬、希望と可能性に満ちた大学で過ごす4年間を大切に、今日という現在の時間を明日という未来のために、そしてその誰より大切な未来の自らのために使ってほしい。

上記は、平成 22 年 亜細亜大学・亜細亜大学短期大学部の広報誌『広報アジア』に掲載したエッセイ「未来創造」である。

学問としての経営学を研究する研究者としての役割を考えるとともに、ビジネスに携わったことも無

い、企業という組織活動に関わったことも無い若い学生たちにビジネスと仕事と組織のマネジメントを教育する経営学部の教員としての役割、またドラッカー学会からの多大な協力と支援によって亜細亜大学経営学部で開講された「経営学特講（ドラッカー学会寄附講座）」を担当する教員としての役割、学生たちを引率してドラッカー学会の総会・講演会・懇親会に参加する教員としての役割を考える。

2009 年 12 月に発行された岩崎夏海氏の『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』が 2011 年 5 月 11 日現在累計 268 万部を突破し、コミック化、アニメーション化され、さらに映画化される中でも、P.F. ドラッカーという名を知らないと答える経営学部の学生がいる。また P.F. ドラッカーの著書を読んだことがないと答える学生がいることはもちろん、未だ『もしドラ』を読んでいないと答える学生が半数を占める。第 6 回ドラッカー学会総会・講演会・懇親会にボランティアとして参加した 16 名の学生たちに関しても、このような状況は大きく変わらない。

P.F. ドラッカーのマネジメント思想を学び、研究し、日々のビジネスと仕事で実践している方々の集いドラッカー学会に、このような学生たちをボランティアとして引率して参加するには、数行の文章では表現できない大きな罪悪感を克服しなければならない。第 6 回ドラッカー学会総会・講演会・懇親会に参加した学生たちの感想文をまとめる中でも「貴重な体験をさせていただいたにもかかわらず、彼らは何かを得たのだろうか」という絶望感に陥る。

しかし、彼らの記憶の中に「ドラッカー」という名は深く刻まれたであろう。ドラッカーの社会思想、ドラッカーのマネジメント思想、ドラッカーの著書を理解すること、そしてドラッカーの思想を学び、実践しようとする方々が集うことの意味を理解すること、大学におけるドラッカー経営学を学ぶ意義を理解することは困難であっても、生き生きとしたドラッカー学会の皆さんの温かい笑顔だけは彼の記憶に深く刻まれたであろう。

そして、5 年後、10 年後、20 年後、未来のある日、ビジネスと仕事と組織と社会とそれらに対する自らの役割に悩むようになった彼らは、「ドラッカー」という名とドラッカー学会の皆さんの温かい笑顔を思い出し、ある書店のドラッカーコーナーの前に立っているのだろう。

その彼らが、社会を変え、文化を変え、文明を変えていく 22 世紀のリーダーへと成長していくことと信じている。

陳 琳

先日、ボランティアとしてドラッカー学会第6回総会・講演会・懇親会に参加させていただけたこと心よりお礼を申し上げます。

学会ボランティアとして参加させていただくのは2回目ですが、根本様にメールで「名簿を確認させていただき、たぶん、昨年もお手伝いいただいた方もいらっしゃるようで心強く思っています。」と仰っていただき、信頼していただいて嬉しく思うとともに、2回目のボランティア参加であるからこそ責任感を感じました。昨年初めて参加した時は、来日後8ヶ月目のことでしたので、日本語能力、ドラッカーについての知識、不十分な点が多く、悔しい思い出がたくさんありました。今回は1年間の成長を検視するという気持ちで学会ボランティアに応募いたしました。

受付チーム・リーダーの長島様と菅野様には大変お世話になりました。日本語力と日本の社会におけるビジネスマナーなど不十分な点が多く、失礼なところたくさんあったと思いますが、優しく指導し、助けてくださりまして、本当にありがとうございました。仕事だけではなく、仕事する間に長島様と菅野様から頂いたアドバイスも大変勉強になりました。「会社の中で、上司が部下にやってもらいたいことは何か」と長島様に聞かれた時こういう質問がよくある気はしましたが、答えはなかなか出ませんでした。長島様の「考えてもらいたい、自分の意見を持ってもらいたい」と菅野様の「質問された時はすぐ反応できるかどうか、つまり常に自分の意見を持っているかどうか、すぐ自分の意見が言えるかどうかはとても大事だ」というお話には多くのことを考えさせられました。

13日のドラッカー学会研究部会と14日のドラッカー学会講演会で先生方々の講演を聞いて一つ気づいたことは全部の発表と講演の中で私には頷くことしかできませんでした。2年間経営学を勉強してきた、企業経営に関するいくつかのキーワードは理解できるようになりましたが、その講演の本当の意味は何なのかが分かったとは言えず、自分の意見も全く持てませんでした。ドラッカーの本を読んだことがあることさえ堂々と言えなくなりました。1年前、ドラッカーの本は読みやすいと思っていたことを振り返ってみると、実は本当に何もわかっていなかったということを感じました。今回の学会をきっかけ

に、今後は常に自分の意見が持てるように普段の生活で意識を持って訓練していき、いつかドラッカーについて自分なりの理解をきちんと述べられるようにしていきたいと思います。

懇親会最初の講演を行った岩崎先生が『もしドラ』を全国範囲の高校に寄付し、ドラッカー思想を学生たちに知らせることを「すでに起こった未来」に例えられたことは、これ以上ないドラッカーの引用であると考えております。今はまだ明確に表れる現象ではないとしてもドラッカー思想を勉強する学生は増えつつあり、ドラッカーの思想はすでにわれわれの中で何かの変化を起こしました。ドラッカーの思想を今後の生活や仕事の中でどのように生かせるかは、これからの私達の課題であると考えております。

ボランティアとして活動していた一日中、イベント班の方々はドラッカーの言葉を引用することが多く、それはまるでドラッカー学会の会員としての誇りでもあるかのように聞こえていました。それこそ毎年多くの社会人の方々や研究者の方々には日本全国各地から熱心に早稲田大学に集まり、ドラッカー学会を開き、さらにボランティアとして学会に参加する理由であろうと考えております。いつか私もそういう誇りを持つドラッカー学会の一員になれるように頑張っていきたいと思います。ドラッカー学会にボランティアとして2回も参加できたことは日本での留学生活の中で貴重な体験でした。ドラッカー学会の皆様のご講演を聴く貴重な機会をいただいたこと、また1年間の成長を検視する機会を頂いたこと、重ね重ねお礼を申し上げます。

一所懸命に仕事に取り組むことができる姿勢のこと」と理解しています。まさに学会に参加する皆様の姿ではないかと思いました。

李 有晨

ドラッカー学会へボランティアとして参加させていただいたこと、心からお礼申し上げます。普段接することのない、ビジネスマンの方々と交流は学生の私たちにとって、貴重な経験となりました。また、誘導のボランティアでありながら、講演会へも参加させていただきました。特に、誘導チームのリーダーを担当された丸山様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

今回ドラッカー学会に参加したのが2回目となりました。大学の時代に2回もドラッカー学会に参加することができ、そして社会人の皆様と一緒に行動できたことは非常に嬉しく存じます。この会に参加して得られるものは、社会経験だけでなく、普段お目にかかることのできない方と話すという機会は新鮮で刺激的な出来事であり、学生である私自身の未熟さとその立場を再認識できたことです。

講演会の内容についてですが、一番印象に残ったのが「真摯さ」という言葉でした。富士ゼロックスの小林陽太郎先生の「われわれがドラッカーから学んだもの」とキッコーマン株式会社の茂木友三郎先生の『現代の経営』と私の経営』の講演の中で、何回も「真摯さ」が取り上げられました。確かに、ドラッカーのマネジメント思想を語るとき「真摯さ」という言葉は欠かせない言葉であると思います。私は亜細亜大学経営学部経営学特講（ドラッカー学会寄付講座）という科目を受講しました。授業での最終課題は、ドラッカーの著書を一冊読んで感想文を書くという内容でした。私は『マネジメント—基本と原則【エッセンシャル版】』を読みました。当時一番分からなかったのは『マネジメント』から出てきた「真摯さ」という言葉でした。ドラッカーは上司の持つべき唯一の資質は真摯であることと強調している。『もしドラ』の中もマネジャーには根本的な資質として、「真摯さ」が必要であると書いてあります。私は何回も悩んでいました。ドラッカーが言う「真摯さ」とは何でしょうか。『もしドラ』では、「真摯さ」とは何かについて説明はありません。実際調べたところ、ドラッカーは「真摯さ」のことを以下のように書いています。「人を扱う故に、正義の原則のもとにあつて、終始真摯たるべきことが要求される。」
「人材の育成にも、分析の能力と真摯さが要求される」とであると、私はその「真摯さ」を「強い信念と正義の原則に基づいて、不変の正直さと誠実さで、

講演会が終わったあと、懇親会が行われました。社会の様々な職種で活躍している皆様と接触する唯一の機会だと思い、ドラッカーに興味を持ったきっかけや、ドラッカーの著書を読んで学んだことをもとにどのように経営をしてきたかなどのお話をうかがいました。私はそこで「何故わざわざドラッカー学会に足を運んだのか」と実に失礼な質問をしたにもかかわらず、丁寧に答えて頂きました。親身の方々でした。ここで改めてドラッカーの「真摯さ」が実感できました。

今回ドラッカー学会に参加させていただき、大学のキャンパスだけではなく、外部の様々な方々と接することもできる有意義な時間になりました。まことにありがとうございました。

商 雅旭

5月14日のドラッカー学会を参加させていただいて誠にありがとうございました。貴重な講演を聴かせていただき、学生として貴重な経験ができました。私は誘導チームに所属し、最初のところはちょっと緊張しましたが、児玉さんと丸山さんは優しく対していただき、その緊張感はだんだん消してきて本当にありがとうございました。実はこのような社会人との出会いは少なく、留学生として日本の企業についての知識も多くないです。にもかかわらず、講演が始まる前に丸山さんは面白い話し方で簡単に説明していただいて本当に助かりました。

「ドラッカーに学ぶ自分の可能性を引き出す方法」というテーマの中で取り上げられた強みを発揮させること。あなたを持つ能力を明らかにする。自己管理に焦点を合わせる。職場以外の場所に興味を持つ。学ぶことを学ぶ。情報の責任を負う。体系的な廃棄を見出すという七つの言葉は学生時代の我々にとっても社会人になった方々にとっても自分自身のことを認識できるようになります。学生時代に学校で先生方々の授業を受けて、教科書の中で専門知識を勉強しましたが、その知識は本当に自分が学びたいことか、本当に自分の強みを発揮させることか。確かに判断しにくくなってしまいました。しかし、学ぶことを学ぶ、どんなことをやっても努力すればいい。それで、夢なんか実現できるかどうか自分は決めることわけではありません、自分はその目標に向かって頑張ればいいと思います。

花松先生は日立製作所の過去10年の外国人雇用数は横ばいという。また海外の売上高は10年で約8割増だそうです。日立製作所は中国でも大変有名な企業であり、その品質や技術の素晴らしさも学ぶべきだろう。また、茂木先生は「リーダーに求められるのは真摯さである」と述べました。その真摯さは具体的にどんなことだろう。自分の真摯さを100パーセント相手に伝えることは一番難しいことだろう。それに対して知識だけでなく自分の内面的なものも大事だと思っております。社会はよりいいものするために、存在します。企業の目的は顧客の創造、社会になることです。各企業はそれぞれの業務を営んでいるが、お客様を大切にすることは一緒です。たとえ企業はよりいいものするために、世界にとっても素晴らしいことだろう。

懇親会の時、先生達と話ができて本当によかった。

中国の大連からきた私にとっては本当にいい勉強になった。それで、留学生として、マーケティングを勉強し、中国のビジネスをドラッカーの考え方を利用し経営していくならいいなあと思う。国際的な成長という観点は実現できればいいですね。今、私は国際経営に関する知識を勉強しているが、確かに簡単なできることではないと感じました。適切な国際化戦略を打ち出せなかった企業は本国側の競争力も弱体化し、次第に成長軌道から外していく事例が多かったです。にかかわらず、資生堂や日立などのような成功している企業も存在している。それらの成功秘密は何だろう。答えは私にとっては研究のテーマであり、永遠の課題になるかもしれません。

今回のドラッカー学会でいろいろな先生の話をお聞かせいただき、ドラッカーのことだけでなく職場での経験も教えていただき、まことにありがとうございました。今から、残り少ない大学生活、今回の経験を思いながら、有意義の日々になるように頑張ります。

江川 佳子

「人は互いに影響を与え、影響を受けながら生きている。」私はこの様に考え、より多くの人と関わり、今までどの様な経験をし、どのように感じ、どう行動してきたのかを知りたいと思い、積極的に様々な人と交流を深めてきました。だからこそ私は、このボランティアの募集を知り、即座に参加させて頂くことを決意しました。

その後、学会の方より、ボランティア参加者名簿、学会のロジ表を送っていただきました。ロジ表には、担当ごとの注意点や、前回意見が挙げたことなどが記されており、まさに「緻密」とはこの様な事をするのだと感じました。初めてボランティアに参加する私でも、当日の流れを掴む事ができました。

学会当日、私が気負いすぎていたせいか、想像していたよりも和やかな雰囲気でのミーティングが始まりました。私は受付の担当となりましたが、大まかな流れを説明された後、臨機応変に対応するという事でミーティングは終わりました。受け付け開始の時間となり、最初の方はとても多くの人が一斉にいらっしやいました。スムーズに対応出来ず、厳しい言葉を頂いたこともありました。しかし、スーツを着て仕事をしている以上、プロとして動かなければならない。それが、社会に出るとのことなのだと感じました。

私たちはボランティアとして学会に参加する事を志願したにも関わらず、少しの時間ではありましたが、実際に講演を聞かせて頂く事が出来ました。ドラッカー学会代表の上田惇生先生とドラッカー学会理事の井坂康志先生との対談では、とても興味深いお話を聞く事が出来ました。

人間は多様であり、短所をなくす事よりも長所を伸ばすべきだという事、一人一人はデコボコでも、それらが集まることで素晴らしい組織になるという事、意見の違う人を排除するという考えは危険だという事など、企業だけではなく、身近な生活にも通ずる素晴らしい思想を知りました。今まで、私は短所をなくす事ばかりに気を取られ、長所を更に伸ばすという事をおろそかにしてきた事に気が付きました。

そして懇親会では、「様々な人と交流を深める」という私の持論の元、積極的に交流を図りました。参加された方は、一流のビジネスマンや経営者の方ばかりだったにも関わらず、いや、だからこそ、人と

してとても魅力のある、素晴らしい方ばかりでした。私は、憧れを抱きつつ、沢山の貴重なお話を聞く事が出来ました。

今回、このボランティアに参加させて頂いたことで気づいたことは、いかに自分が臨機応変に動けなかったかという事です。自ら考え、主体的に行動しなければ物事を円滑に進める事は出来ず、いちいち指示を仰ぐようではいけないという事を改めて気づかされました。私がドラッカーの思想について学んだことは、まだほんの一部ではありますが、そのほんの一部を知っただけでも、ピーター・F・ドラッカーへの興味は増すばかりです。

今回、講演会や懇親会に参加させて頂いた事により、私は多くのことを学ぶ事が出来ました。至らない点も多く、とても沢山の心配やご迷惑をお掛けしてしまったにも関わらず、丁寧なご指導をしてくださった事、とてもうれしく思います。

このような貴重な機会を与えて下さったドラッカー学会の方々をはじめ、学会に関わる全ての方々にお礼を申し上げます。またいつの日か、お会いできることを楽しみにしています。

本当にありがとうございました。

毛利 茜

今回、ドラッカー学会の講演会ボランティアに参加し、多くの体験をすることができました。今まで社会人の方と一緒に一つのことをやり遂げる機会は無かったので、一つ一つのことがとても新鮮でした。

ドラッカー学会のイベント班の方々には「やり易いように自分たちで考えてやっていいよ」と言って頂きました。学生である私たちは、責任を持って仕事をすることがなく、今回のボランティアのように自ら考えて一番効率の良い方法を考えるということもありませんでした。そんな中、私たちにすべてを任せて下さったみなさんのおかげで少しでも成長できたのではないかと思います。私は、受付業務を任せていただき、来場された方の確認などを行いました。現在、予備校で受付・事務のアルバイトをしているので受付には自信がありました。しかし、対応する方が高校生ではなく企業の代表者や大学教授など目上の方になっただけでスムーズな対応ができなくなってしまい、自分の未熟さを改めて感じさせられました。

私は現在4年生となり、1年後には社会人として仕事をしていくことになります。今まで就職活動をしていても、自分自身が仕事をしている姿というものをうまく想像することができませんでした。また、考えられるきっかけを与えていただけました。また、受付業務の合間にはイベント班の方々が私たちの話に耳を傾け、またたくさんアドバイスをいただくことができました。今回の経験を生かし、今後も就職活動に励んでいきたいと思えます。

講演会後の懇親会では、来場された方々と直接お話しする機会をいただき、普段は感じることでできない世界観に触れることができました。仕事に対する考え方など人それぞれが違ったこだわりを持っており、勉強になることばかりでした。

P.F.ドラッカーについての知識が何も無いまま今回のボランティアに参加してしまったことをとても悔しく思います。ボランティアでは講演を聴く機会も与えていただけなのですが、うまく理解のできない部分もありました。事前にドラッカーについて調べていればもっと深く、広く理解することができたのではないかと思います。

猪狩 善仁

今回はドラッカー学会の講演会、懇談会にボランティアとして参加させていただき、ありがとうございました。普段の学生生活では社会で活躍されている方々と話させていただく機会はほとんどなく、とても新鮮でした。私は誘導班に配属されましたが、普段聞くようなことができない方々の講演が聞けたり、時間が空いている時はいろいろな方に社会のことについての話などが聞けて、私にとって大変有意義な時間となりました。

懇談会では、私は雰囲気委縮してしまい、自分から話しかけることができませんでした。しかし、このような体験も今のうちにできてよかったと思いました。

今回のドラッカー学会にボランティアとして参加して、私はドラッカーについて何も知らなく、社会に必要な知識も少ないと感じました。学生のうちに様々なことを吸収し、ドラッカーの考えをもっと学んでいきたいと思いました。今回は本当にありがとうございました。

井本 圭祐

ドラッカー学会総会・講演会・懇親会のボランティアに参加させて頂き、ありがとうございました。今回、日頃社会で活躍されているビジネスマンの方々と一緒にイベント運営の仕事ができるということでも貴重な経験をさせていただきました。私は進行チームでDVDの録画などを担当しておりました。今までボランティアや社会人の方々と一緒に何か作業をしたことがなかったので、初めは不安と緊張でいっぱいでしたが、イベント班のスタッフのみなさまが親切で、解りやすく指導していただいたおかげで、無事に仕事を終えることができました。

私は、ドラッカーの知識はほとんどなかったので、総会・講演会での会員研究発表は、3つともわかりやすく、プレゼンテーションの仕方も勉強になりました。ドラッカーと松下幸之助についてのプレゼンテーションで、人間観を持つことの大切さを知りました。人間観を持たなければ、人を生かすこと、自分を生かすことはできないということでした。

「ドラッカー経営思想の神髄」、「ドラッカー研究の未来」、「ドラッカーに学ぶ自分の能力を引き出す法」の講演を聴いて、ケースバイケースで対策を考えマネジメントすること。強みを伸ばすこと。自分の持つ能力を理解すること。自己管理に焦点を合わせる。情報の責任を負うことなどいろいろ教えて頂きました。小林陽太郎さんの「われわれがドラッカーに学んだもの」では、利益は企業や事業の目的ではなく、条件である。利益は、事業における行為や意思決定の理由、原因、根拠ではなく、妥協性の尺度であると教えて頂きました。茂木友三郎さんの『現代の経営』と私の経営では、意思決定の仕方や、問題を理解し、分析し、解決すること。地域社会と共存しなければならないことを学びました。

懇親会では、現在活躍なさっている社会人の方々とお話しをさせて頂きました。どなたも声をかけると親切に受け答えしてくれ、名刺もたくさん頂きました。ドラッカーについての話や、それぞれの会社の話、尊敬する経営者の話、残りの大学生活におけるアドバイスや、就職活動のアドバイスなど、どれも勉強になる話ばかりでした。

今回ボランティアに参加して、ドラッカーの凄さを理解できたと同時に、ドラッカー経営学の難しさを感じました。改めて自分の経営学の知識、ドラッカー経営学の知識のなさに気が付きました。これを

機に、大学での授業やドラッカーの書物を読んで、少しずつ理解を深めていきたいと思います。また、普段の大学生活では味わえない素晴らしい経験をさせていただきました。ドラッカー学会の皆様、白先生、本当にありがとうございました。

河原 里美

会場には、何かお祭りが始まるかのような、雰囲気は漂っていました。

約160名もの方々がドラッカー講演会に集まりました。会場に集まったドラッカーファンの方々の表情はとても明るかったのが印象的でした。

今回、ドラッカー学会にボランティアとして参加させていただいたことは、私にとって大変貴重な経験であり、ビジネス社会で働く方々と話す、またとないチャンスでした。この機会を与えてくださった白先生に感謝していると同時に、先生に恥をかかせるような行動はしてはいけない、亜細亜大学の看板を背負っているのだと思うと肩に力が入り、緊張や不安でいっぱいでした。午前8時にドラッカー学会の役員の方々との顔合わせが始まりました。私は進行チームに割り振られていたので、進行チームのリーダー陣野さんとボランティアの仲間と打ち合わせをさせていただきました。スケジュールを確認すると、講演の午後には進行の仕事が入っており、しっかりとできるかなと、また不安がつのりました。時間が経つにつれて、だんだんと役員の方たちが集まりはじめました。講演の打ち合わせをしても、重々しい雰囲気はなく、冗談を交えながらの楽しい会話が聞こえる暖かな雰囲気の中で緊張がずいぶん和らぎました。今思うと、資料作成や綿密な打ち合わせがあったからこそ本番は適度な緊張をもって当日を迎えられていたのだなと思いました。

やがて受付が開始され、続々と「ドラッカーファン」たちが集まりはじめました。私も研究報告会に参加させていただきました。ふと、後ろの会場の席を見ると、席はほぼ満席。遅れてきた方が空席を捜すのも大変な状況で、ドラッカー熱はこんなにも熱かったのかと驚きました。講演会では、重々しい空気が流れているのかなと思いましたが、会場の雰囲気は非常に明るく、研究発表をなさる会員の方、会場を運営している役員の方、講演を聞きにきている会場の方々、一人一人から発せられており、肌で感じ取る事ができました。ピータードラッカーという名のもとに集まった人たち。会場の人々はドラッカーを通して集い、会員の方々は楽しんで研究し、それを発表する。また他の人もそれを楽しんで聞いている。ドラッカーさんはそんなにも魅力的で人々に愛されている方なのだと思えることができました。

講演が終わり、懇親会では、たくさんの方々とお話をさせていただきました。乾杯の音頭がとられてからしばらくの間、その場を動くこともできませんでしたが、会員の一人の方が話しかけてくださり、それからは緊張がほぐれ積極的にお話しをすることが出来ました。仕事で悩んでいるときに、ドラッカーの本に出会い、転職を試みて企業を立ちあげた方。私と同じ学生でドラッカーに興味を持ち、自分の道というものが明確になっている会員の方など、魅力的な方々ばかりで話すことに夢中になっていました。一人一人の方がそれぞれドラッカーについて、何か思いがあり、考えがあるからこそ、個性が生きても懇親会の会場も生き生きとした場になっていたのではないのでしょうか。上田惇生先生ともお話をすることができ、とても嬉しかったです。緊張を失って、支離滅裂なことを話してばかりな私でしたが、しっかりと意図を汲んでくださりました。人生で何か熱中できるものを見つけないという私の問いに、「好きな本を読んでいけば見つけられるよ。」と暖かいお言葉をいただきました。大学3年、まだ将来の方向性がしっかりと固まっていません。ですが、上田惇生先生のこの言葉を胸に、沢山の本を読み、積極的に行動し、興味をひろげて自分を高めて生きて行きたいと思いました。

ボランティアとして参加させていただき、刺激をたくさん受けました。今回の学会を通して、改めて自分を見つめなおすこともできました。学生生活では経験できないこの機会を与えてくださったドラッカー学会の皆様へ感謝しております。これからドラッカーを学び、また皆様とお会いできるように頑張ります。ありがとうございました。

鯨岡 武司

私たち学生に貴重なドラッカー学会のボランティアをさせて頂きまして本当にありがとうございました。

学生にとって学会という場はとても入りづらく、一人で学会に足を運ぶには交通費や入場料が掛かってしまい通うのも難しいのですが、学校のボランティアということもあり参加することができました。

まだ、学生ということもあり、至らない点も多くご迷惑をおかけしましたが、大学いるだけでは学べないことをたくさん学び、無事にドラッカー学会でのボランティアを終えることができました。特に誘導係のリーダーであった児玉さんには、学会当日に何も分からずに来て緊張していた私に優しく声をかけて頂き、リラックスして誘導係の仕事をすることができました。

また、私にとって特に貴重だった出来事は懇親会でドラッカーに精通している企業人の方々から色々なお話を聞いた事でした。私自身ドラッカーを学ぶのは初めてだったので、5から6人の方に質問をさせて頂いたのですが、その方々に共通していたことは、『学生のうちにドラッカーについて学ぶことは本当に幸せだよ。あなたはまだまだ若いのだからもっとドラッカーについて勉強してみなさい。』という言葉掛けて頂いたことです。おそらく、その言葉の重要さに気付く人は数人だけかもしれませんが、大学を卒業するときに後輩、先輩あるいは家族にドラッカーについて学んだことをしっかりと伝えられるようになるかと思います。

そして、前日からずっと学会に行くのを楽しみにしていたので、なかなか寝られずにいて本当は休憩の間寝てしまうと考えていましたが、やはり学会での講義の様子が気になって誘導係のリーダーである児玉さんに了解を得た上で見ておりました。私が講義を見ていた時間は14時からの上田惇生先生と井坂先生の「ドラッカー研究の未来」についての対談と15時から的小林陽太郎先生（富士ゼロックス）の我々がドラッカーについて学んだもの」と茂木友三郎先生（キッコーマン）の「『現代の経営』と私の経営」についてでした。

中でも上田先生の講義は疲れていても自然と耳に講義の内容が入ってきて、いつの間にか熱中して聞いていました。メモを取りながらだったのですが、特に集中して聞いていた内容はマネジメントの役割

のところ、『会社の存在理由を示すのはよいが、正当化させないといけない。正当化とは「そこで働く人の強みを発揮させること」である。』という言葉でした。私は、リーダーシップについても同じことが言えるのではないかと思います。

会社のリーダーである社長、部長、あるいは課長係長は会社で働いている社員であり、部下の強みをしっかりと見ないといけないのではないかと思います。部下の強み、部下一人一人の得意なところを見てあげて、リーダーが部下に正確に指摘することがドラッカーの言う正当化だと私は考えました。もちろん、会社のリーダーはそれぞれ自分の仕事があっただけでなかなか自分の部下の面倒は見ることができないのかもしれませんが、しかし、会社の組織をマネジメントとして考えるなら会社の内部分析に加えて、部下の面倒を見てあげることから会社の利益につながるかもしれないと思います。それが会社経営のマネジメントではないのでしょうか。

私は現在他でもボランティア活動をやっている、ボランティアを始めてから二カ月後に突然リーダーを務めることになり、過去を振り返ってみても人をまとめたことがないので、先輩に聞きながら試行錯誤をして頑張っております。周りは友達ばかりではなく、知り合いもしくは全く知らない人ともボランティアをすることもあります。ですが、リーダーだけでボランティア活動をやっているボランティアは成り立たないのです。

私はボランティアをやって今年で二年目なのですが、リーダーを務めるようになってやっと今になって気付いたことがあります。それは、ドラッカーの言う正当性がリーダーシップにも結びついているということです。

私はこれから、大学での講義やドラッカーの書物を通じてもっとドラッカーについて勉強をして、2013年に大学を卒業して5年から10年後私の同僚や後輩、あるいは家族にドラッカーがこの世に残してくれた産物について胸を張って伝え続けられる大人になりたいと思います。最後になりましたが、ドラッカー学会の皆様を始め、講義をしてくださった上田先生には本当に感謝の意を文面を通じて伝えたいです。

本来は直接会って述べるのが礼儀ですが、申し訳ありません。

来年もまた、ドラッカー学会に参加をして今年以上に皆様のお役に立てる様になりたいです。ありがとうございました。

邢 文嬌

人生は、企業を経営することと似ている。会社を長く続けるような、人生も未来の夢を実現するために、自らを革新しなければならない。今回のボランティア経験は自らを革新するという意味でして、非常に役立っている。

5月14日私は人生の初めてのボランティアとしてドラッカー学会総会に参加した。とても緊張して、何をどうすればいいか全然分かりませんでした。学会が始まる前には当日の仕事内容の他にもマナーと礼儀なども指導して頂いた。

仕事の合間には研究発表と講演を聞くことができました。一番印象深かったのはドラッカーと松下幸之助を比較して、会社における個人の役割という非常に重要な共通点から何を学ぶべきかについての研究発表だった。人間の存在意識を中心に考え、その潜在力を発展し、自己実現だけではなく、自ら満足し、さらには周囲の人を喜ばすという形で、社会に貢献できるということは、人生における一番な成功である。そして、経営とマネジメントは、企業の経営に限定されるものではなく、社会全体にも必要なものである。

まだドラッカーに関する勉強は充分ではないが、ボランティアとしてドラッカー学会に参加し、日本のビジネスマンと接し、交流しことで、人と接するマナー、礼儀、態度など大学の授業では学ぶことのできないことを、身をもって体験できた。また、ドラッカーについても興味を持つようになったし、今後の経営学の勉強にも役立つだろう。

このように様々なことを考えるようになり、本当によかったと思う。私にとっては日本の会社に入っていく最初の一步であったし、私の人生にとって大事な宝になるだろうである。

まだ企業、企業の経営についての勉強が十分ではないが、自分の力できちんと自分の人生をマネジメントすることについての勇気もらった。どうすれば自分の力が開発できるか、どうすれば社会に入りやすいか、どうすれば自分の人生の利益が一番大きいかなど、今後多くのことを学んでいかなければならない。未来については知ることができないが、自分自身をきちんと認識して、未来の夢を実現するために、自らをマネジメントする。

張 家齊

五月十四日東京都早稲田大学でドラッカー学会ジャパンの六回目の総会が行われました。多くの経営知識を勉強してきて、今度、ベク先生のお陰でドラッカーのファンとしてはボランティアをさせて頂き、実に光栄の至りのことでした。当日、私は初めて大勢なドラッカーの知識を求めて来た社会人に会って、自分もとても緊張でした。何故かという学校で勉強したドラッカーの知識は只の本を読むくらいと言い過ぎません。でも、ここにいた社会人たちは、いつでもドラッカーの知識を使って、自分の仕事または社会を良くなるために一生懸命に努力しております。ドラッカーの言葉を使えば、知識労働者は社会人という言葉よりもっとここに来た人に合うと思っております。経営者、サラリマンにもかかわらず、ドラッカーの知識では自分の居場所に使えるところがあります。真理の前に私たちはただのドラッカーのファンではないかと考えられます。そして、今度の機会ですらドラッカーの知識を実現した知識労働者が様々な経験を聞かせて頂くことはとても、貴重な経験だと思っています。更に様々なドラッカーの著作を翻訳した上田先生に会いました。大変、光栄なことだと思っております。上田先生はいなければ、ドラッカーが言いたいことは誰が日本で語りして頂けませんか。そして、私たちは会員たちの研究発表を聞かせていただきました。日本の経営者たちの考え方やドラッカーの考え方の共通点と様々な企業、業種にどうやってドラッカーの知識を活用するのを勉強しました。大変、自分の考え方はもっと深く勉強したと感じました。

午後、懇親会で皆様との話し合って、多くの方々に大変貴重な社会経験を頂いて、誠に大変幸せだと感じました。私たちのチームリーダーの鈴木 晋作さんに感謝の気持ちをお伝えしたいです。鈴木さんは当日の活動の中で、用事があっても必ず私たちのそばに見守りにして頂き、ありがとうございます。ボランティアよりスタッフの皆はもっと疲れたと思います。お疲れ様です。来年またチャンスあれば、是非、また一度参加させていただきたいと思っております。これからの一年間の間に私たちもベク先生の下でドラッカーの知識を学び、未来のある日、ボランティアではなくて、正式な会員として皆様と一緒に知識を話し合いたいと思っております。

富安 美奈子

先日は貴重な体験させていただきありがとうございました。初めてのボランティアとしての参加でした。最初とても緊張していてサポートできるのか、足手まといにならないかととても不安でした。企画リーダーの方が作っていただいた分機材身のスケジュールを見て不安はさらにもっと大きくなりました。私は今までの学生生活の中で文化祭や体育祭さまざまな行事をこなしてきました。高校では生徒会に入り生徒会長を務めさせていただきました。総会など経験してきましたが、ここまで完成度の高いものを作ってきたかと自問してみると、恥ずかしい限りです。議題などたくさんの資料を作ってきましたがリーダーの方が作ったものを見て自分がとてもはずかしくなりました。と同時にとても勉強になりました。今後大学や社会において組織のリーダーになったとき、このドラッカー学会でのボランティアで教わったことを発揮して誰よりもすばらしいものにしていきたいと思います。

ボランティアをしているなかで、講演会を聞く機会を与えてくださったこと本当に感謝しています。すべてが初めての経験で驚くばかりでした。大学の授業でプレゼンテーションなどをする機会がありますが時間内で説明して話すことはとても難しいです。先日私もプレゼンテーションをする機会がありましたが、時間内に終わらず話もつまりつまりでとても聞けるものではありませんでした。私が拝見したプレゼンテーションはすべて時間内に終わりかつ分かりやすく話を付け加えすばらしいものでした。プレゼンテーションをされている方の熱意も伝わりましたし、聞く側の姿勢にも感激しました。社会人の方の講演会・総会とはまず雰囲気から違い驚くばかりで気が引き締まることばかりでした。私のゼミナールの先生である白先生の授業では毎週必ずプレゼンテーションがあります。来週は私の担当で、顧客の不满についてのT.レビットの「マーケティングの革新」という本を読みそれについてのプレゼンテーションです。とても素晴らしいプレゼンテーションを拝見させていただいた経験を活かし、来週のプレゼンテーションには自信を持って挑みたいと思います。

講演会の後は懇談会でしたが皆さん名刺を交換し、たくさんの方とお話できる機会がありました。これまで私は名刺を持っていませんでしたが、白先生からこのような機会をぜひ自分のものにすべきだとい

うアドバイスのもと名刺をつくりました。何も準備をせず参加するのはもったいないと思いました。初めての名刺交換で緊張しましたが、たくさんの方とお話できる機会でもとても充実した時間を過ごすことができました。と同時にとても良い経験ができました。

今回ボランティアに参加して何かひとつでも自分のものにできたと思っています。本当にありがとうございました。また、よろしく願います。

劉 毅

ドラッカー学会、総会、懇親会に班のボランティアとして参加させていただいた貴重な経験は、学生の私にとって、又とない機会であり、大変勉強になり、また人生における糧となりました。

白先生に「名刺を作っておいで」と言われ、名刺が出来上がった時は、とても緊張しました。今までボランティアの経験をしたことがない私は、“きちんとボランティアの仕事ができるだろうか”、“言葉遣いは正しくできるか”、“自分の日本語が伝わるだろうか”など、様々な不安を抱え、緊張と興奮が入り、前日の夜はあまり眠れませんでした。

当日、受付班のリーダーである菅野さんより、日程を詳しく説明して頂いた折に、漸く安心することができました。日程の流れに沿って行動すれば、順調に運営のお手伝いができるのではないかと考えたからです。しかし実際には少し慌ててしまいました。机は手際よく並べる事が出来ましたが、名札を準備し順番に並べた時、思いの外、時間が掛かってしまい、入場者のみなさんを待たせてしまいました。入場チェックが始まった時も、受付班は緊張しており、みんな立ったままになってしまいました。菅野さんに何回も「座ってもいいよ」と言われたので、座ってみると、気持ちも落ち着きました。その時にした“名札の準備や作業を、もう少し効率良く行うにはどうすれば良かったか”という反省を、深く心に刻みました。その後、リーダーである菅野さんより“就職のコツ”や、“仕事を効率良く行うにはどうすれば良いか”、“自分の強みは何か”など、学生の私にとっては、まだ分からない、社会人の考え方などについてのお話をして頂きました。このお話は、これから社会に出る私に、大変強い刺激を与えるものであったと共に、社会人になるという事に関して、いかに私の考え方が甘かったか、ということを実感させるものでもありました。

受付班は、入場チェックだけを行ってはいは、何の意味もありません。統計を取ることも必要だと言われました。私たちはすぐ現時点の人数を数え、午前と午後の入場者を区別し、総会が終わる頃には、出席された人数の集計を終わらせることができました。この時の作業からも、様々な事を学ぶことができました。それは、仕事を行う際は常に考えて行動しなければならず、リーダーからの指示を只待つだけでなく、細やかに、且つ積極的に仕事をこなし

ていかなければならないと云う事です。

午後は上田先生の講演を聴かせて頂きました。私は、昨年、白先生の講義を受講させていただいた際に、初めてドラッカーという名を耳にしました。白先生はドラッカーの著書を要約して授業内で紹介されました。そこで感じた事は、ドラッカーの企業概念と、大学の経営入門の講義で学んだ企業概念とは、若干の隔たりが存在するという事でした。その経営入門での概念との違いは、ドラッカーの思想には“人間の大切なものは絆であり、人々の幸せのために経営は行われる”というのがあると云う事です。

現在は組織社会であり、一つの組織を上手く運営するためには、マネジメントが必要です。私はドラッカーの著書を拝読した事により、物事を見る視点や角度が変わり、新たな発見をする事ができました。また、私は自身について、常に分かっていることは短所のみで、長所に関しては何一つ答える事ができませんでした。上田先生がおっしゃった、ドラッカーの思想の中にある“強みを発揮して短所を無意味にする”という言葉が耳にしたことで、長所が分からないと、自分には何が出来るのかが分からない、ということを確認することができました。私はドラッカーに触れなければ、自分の本当の価値が分からないままであったと思います。現在は日本の非常事態であり、企業も復興のために企業自身の強みを再度確認しなければならない時であると思います。

自己の能力を引き出すために、ドラッカーに学ばなければならないことが7つあります。これは上野さんの講演で学びました。さらにこの中で、私の関心を引いたのは、“重要なのは才能よりも努力”と“職場以外の場所に興味を持つ”です。前者については、才能があっても一度目で成功するという事は、あまりない事で、運に左右される事です。しかし努力する事と、成功する事は比例するものと考え、努力をする過程で、時に意外なものが得られると思います。努力をすることは才能よりも大切であり、私を裏切るものではないと思います。後者については、職場以外に興味を持てば、違う立場を見ることが出来るので、新しい発見が数多くあります。これは顧客の創造に対しても役立つと思われます。そして、人とのコミュニケーションもうまくなると思います。

懇親会については、私が悔しく残念に思った事がありました。懇談会に参加されている方々と、うまくコミュニケーションがとれなかった事です。私の性格は人見知りで、人前に立つのが得意ではありません。一緒に勉強する方や、一緒に仕事をする方とのコミュニケーションについては、問題がないのですが、知らない方に声をかけるのは、やはり苦手に

感じられます。この懇親会で、コミュニケーション能力が不足していると、再度自覚させられました。ですが次回はこの反省を生かし、積極的に多くの方々とのコミュニケーションを図っていきたいと思います。

最後になりますが、今回のボランティアを通じて、社会人のマナーや仕事を行う姿勢などを、間近で目にすることができ、大変勉強になりました。そして学生生活では、到底体験することができない、このような貴重な経験をさせていただき、感謝しております。今回、ボランティアに参加させていただいた事により、ドラッカーについて学ぶ意欲が一層にも増し、来年もこの反省を生かし、ドラッカー学会、総会のボランティアに参加させていただきたいと思っております。次回こそは、さらに学習した成果を基に、ドラッカー学会の方々とお話しできたらと思います。

劉 俊楠

私は亜細亜大学でドラッカーの生涯の業績を学びました。今度私は、人生の中でも初めてボランティアとして社会人の方々と一緒にドラッカー学会総会に参加できました。まことにありがとうございました。

一日に、多くの経営学者と会い、多くの経営者の研究発表を聞きました。その中でも、日立製作所の花松甲貴先生が発表した内容から10年前と10年後の従業員の変化、売上高の変化を通じて、人財供給源の多様化、グローバル企業への転換などの備えが必要で、「すでに起こった未来」はわれわれにも応用できる概念だということを知りました。繁栄を極めた国家も企業もいつの日か衰退を迎えます。企業の製品とサービスは人生と同じ、各時期があります。その変化への対応が必要です。

ドラッカー学会に参加した一日、ドラッカーのマネジメント思想についての研究発表とそれを実践してきた経営者のお話をたくさん聞きました。その成功のストーリーは私の心の中で残り、私の未来に役立てて行きたいと思えます。

初めてドラッカー学会のボランティアとして参加した今回の経験を通じて、ドラッカーのマーケティングについて深く勉強してみたいと思えました。ドラッカーについての勉強を頑張って社会に貢献していきたいと思えます。

ドラッカー学会の皆様、この度は一大学生である私を参加させていただき、本当に有難う御座いました。

林 昂志

私がドラッカーさんの本と出会ったのは去年、「もしドラ」が販売されて間もない頃でした。

人気で生産が追いつかないような状況の中、本屋でバイトしていた自分はすぐ手に入る環境にあったわけですが、表紙の絵がいかにも最近流行のかわいい絵であったこともあり、すぐに目に通すには至りませんでした。しかし、白先生の授業を受けた際に入門書として最適であるとの指摘を受け、ようやく重い腰を上げて読んでみることを決意しました。読んでみると止まりませんでした。こんなに一気に本を読んだのは久しぶりだと感じるほどに自分は「もしドラ」を読み終えてしまいました。そして湧きあがったのは当初想像した第一印象とは裏腹にドラッカーさんについてもっと知りたいという感情でした。

ちょうどその時、受講していた授業にプロフェッショナルの条件を読んでレポートを書かなければならない課題があったので、私はプロフェッショナルの条件に手を伸ばしました。資本主義経済、テクノ、産業革命など難しい単語が並べられていた事もあり、「もしドラ」ほど早く読むことは出来ませんでした。しかし、自分に与えた影響力でいえば「もしドラ」より遥かに大きいものでした。読書後は本当にドラッカーさんの考えに翻弄されていました。気がつけば私はプロフェッショナルの条件に載っている教訓を実践するようになっていました。

今回、ドラッカー学会に参加し、企業経営にドラッカーさんの考えを実践されている方の発表を聴講させていただいた時は本当に感無量でした。自分以外にもこんなにも影響を受けた方々が大勢いらっしゃるという事実にとっても嬉しく思いました。普通の大学生活を送っていると出会うことのできない社会人の方の話をお聞かせいただけたことは今後の大きな資産となると思います。私は社会人の方とあまり話した経験が無く、懇親会の前は緊張していましたが、そこはやはり皆様ドラッカー学会に参加されるドラッカーリアンという事もあり真摯に接して頂き、楽しく話をさせて頂きました。社会人の方にアドバイスを頂く機会は初めてでしたが、頂いたアドバイスは今後の自分の未来を創造していくのに役立っていきたくと思っています。また私に影響を与えて下さった上田先生、岩崎先生と会えた事も光栄に思います。